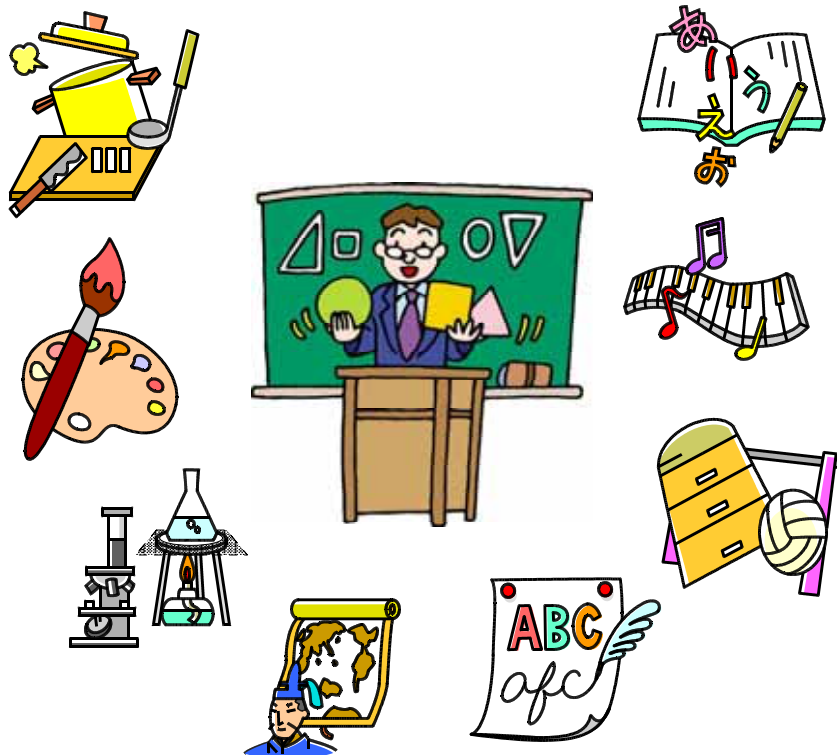


教材キット作成の手引き

「ひな形」も別途ダウンロードしてください



栃木県総合教育センター研究調査部

相談・問い合わせ先

〒320-0002 宇都宮市瓦谷町1070

電話 028-665-7204

FAX 028-665-7303

H P <http://www.tochigi-c.ed.jp/>

教材キット担当（小川順子、小森祥一、杉山正明）

あるいは、各教科担当指導主事まで。

I 教材キットとは？

1 教材キットの趣旨

「教材キット」は、学習指導案や指導計画、ワークシートや教材、児童生徒に提示する資料、授業実践等を集めた教育情報です。

「教材キット」は、すべて県内の先生方が作成したものであり、先生方の日々の授業実践や自己研修を支援することを目的としています。

これまでは、小・中学校を対象にしていますが、平成16年度からは、高校版も募集しています。



2 教材キットの構成

- ① 資料や教材の概要をまとめた「キットの概要」
- ② 作成した資料や教材
- ③ ①②を収めたフロッピーディスク(以下FD)やMOディスク、CD-R等。
(その他、必要に応じてビデオテープ、DVD、TP等)

3 教材キットの閲覧と利用について

(1) 栃木県総合教育センターにて閲覧・利用する場合

図書資料室(1F)とカリキュラムセンター(3F)に配架してあります。

配架してあるプリントあるいはFD等をコピーして利用できます。

(2) 栃木県総合教育センターのホームページ(Webページ)にて閲覧・利用する場合

インターネット経由でダウンロードして利用できます。

トップページ (<http://www.tochigi-c.ed.jp/>) 右側 **カリキュラムセンター**の欄内にある、

■ **教材キット** の文字をクリックしてください。

いずれの場合でも、必要に応じてデータを加工して、授業実践に役立てることが可能です。

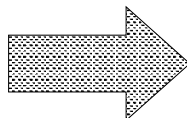
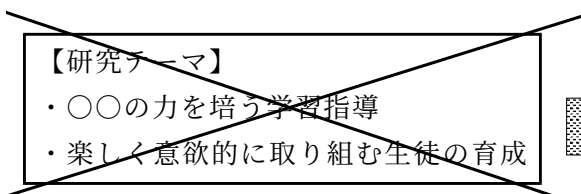


II 教材キットの作成

1 資料の作成

(1) 教材キットのテーマ(タイトル)

内容が分かりやすいように、具体的で魅力あるタイトルを付けてください。



【教材キットとしてのタイトル例】
・古典文法ワークシート
・メルカトル図法の教え方
・三角形の重心の指導法
・原子・分子の模型づくり
・体ほぐしの運動実践例 など

具体的に内容が分かるタイトルに！

※昨年までの「教材キット」のタイトルを、上記のWebページで確認してみてください。

(2) 教材キットのタイプ

「教材キット」には次のようなタイプが考えられます。参考にしてください。

①授業展開タイプ

1 単元または 1 教材の授業を展開するのに必要な情報をコンパクトにファイルしたもの。

[内容例] 学習指導案、指導の展開案、ワークシート、スライド、TPシート、ビデオテープ、生徒の作品・ノート、授業実践記録（授業前の構想、指導計画の作成、実施、評価にあたっての留意点などの説明、授業を終えての感想や参加者の声、授業の様子を分かりやすく文章にしたものなど）

②実験・実習タイプ

主として、理科、美術、家庭、情報、農業、工業などの実験や実習に役立つ資料を整理し、まとめたもの。

[内容例] 実施にあたっての指導上の留意点、実験や製作過程の写真やイラスト、生徒に提示する教材や教具や生徒の作品例、ワークシートなど

③演習・提示・ドリルタイプ

主として、パソコンの操作や活用、TPの作成やその活用法、ビデオ教材の作成方法や活用など、様々な教育機器活用の技能を身に付けるための情報や、その活用に関する情報を整理し、指導上の留意点を示したもの。

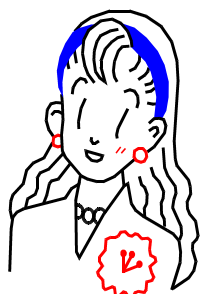
[内容例] 自作パソコンソフトやフリーソフトの活用方法、TPの作成方法・具体例、ドリル用のCD-Rなど、実際の利用・活用例とその解説、指導上の留意点等

④学校行事や学級経営等の計画及び実践の参考例示タイプ

学校行事や学級経営、教科経営などに役立つ資料を整理し、参考例として示すとともに、計画、実施、評価にあたっての留意点等を示したもの。

[内容例] 実施計画と留意点、ワークシート、写真・ビデオなどによる資料（計画、準備、実施、評価などの実施過程ごとに視覚的に整理されたもの）、実施過程ごとの指導上の留意点等

(3) 作成上の留意点



利用者が参考にしやすいように、みなさんの実践や研究をもとに、要点をコンパクトにまとめてください。また、研究授業前に準備・検討したことや、ワークシート、授業を終えての感想、授業研究会での参加者の声、生徒のノートや自己評価票など、具体的な資料がある場合にはご提供ください。

①文書の様式とワープロソフト

- ・文書は、一太郎かWordで、原則としてA4判で作成してください。
- ・文字数、行数の指定はありません。
- ・ファイル「ひな形」（一太郎とWordの両形式あり）も別途ダウンロードしてください。（右図参照）
- ・1 ページ目は《キットの概要》になります。（『2 《キットの概要》の作成』参照）
- ・2 ページ目以降に《「教材キット」本文》を挿入する形にしてください。文書スタイルは設定を変更しても結構です。
- ・ダウンロードしやすいファイルサイズにするため、貼り付ける画像等はできるだけ小さなファイルサイズにしてください。（画面上は小さな表示サイズでも、ファイルとしては大

「ひな形」のページ構成

p1 《キットの概要》
p2 《著作物の出典確認票》
p3 《提出チェックリスト》

ここに《「教材キット」本文》を挿入します。

きなサイズ場合があります。)

- ・最後に《著作物の出典確認票》《提出チェックリスト》を記入してください。
- ・全編が完成したら、教材キットのタイトルと同じ、あるいはタイトルに近い文書ファイル名にして、F D (フロッピーディスク)に“名前を付けて保存”し、提出してください。

完成した文書ファイルの構成は、《キットの概要》《「教材キット」本文》
《著作物の出典確認票》《提出チェックリスト》の順となります。

- ・F Dに収まらない場合は、画像ファイルなどのサイズを小さくしてください。それでも収まらない場合は、センターの担当者あるいは各教科指導主事にご相談ください。

※参考 小・中学校版の教材キットは、そのほとんどをF D収納可能な文書サイズにすることができました。(おもに画像サイズの縮小)

- ・提出する際には、A 4判でプリントアウトしたものを添付してください。

②ページ数

できるだけ20ページ程度以内をお願いします。

③科目名

「世界史」あるいは、「世界史A・B」のように複数科目の扱いとしても結構です。

④学校名・授業者名は匿名が原則

学校名、授業者名等は、原則として匿名ですが、希望により掲載することも可能です。

⑤生徒の実名は削除

作品、ノート、自己評価票などに記載されている生徒の実名は削除してください。

⑥資料等の出典は明記

国語の教材文、統計資料、写真、絵画、楽譜等については、その出典を《著作物の出典確認票》に明記してください。なお、著作権の関係で、出典を明記しても使用できない場合もあります。

(4) 著作権への配慮等について



近年、著作権についての意識が高まり、法的な整備が進んできています。次の事項をよくお読みになり、著作権について十分配慮くださるようお願いいたします。

なお、不明な点がありましたら、総合教育センターまでお問い合わせください。

①著作物のコピー・引用について

【そのままでは
掲載できないもの】

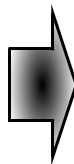
- 国語や英語の教材文などの文章
- 統計資料や写真、図、音楽の楽譜、美術の絵画や人物画
- キャラクターの絵や名称
- ホームページや資料集等に掲載されている画像 など

「教材キット」作成者以外の第三者が著作権を有するこれらの著作物を許可なく利用した資料は、そのままではWebページに掲載することはできません。利用した部分を次ページの例のように修正してください。

日本史資料集にある写真を利用した例



修正前



修正後

なお出典等については、《著作物の出典確認票》（「ひな形」の2ページ目にあります）に、著者名・書籍名と該当ページ、ホームページのURL等を明記するようお願いします。

「著作物の出典確認票」の記入例

著作物の出典確認票			
著作物のコピー及び引用については、以下にその出典等を明記してください。			
	教材キット資料のページ数	引用物	著者名、書名、ページ数、ホームページ URL
例	学習指導案 4 枚目	楽譜	東京書籍 新しい音楽 4 年 P 30 「雨にぬれても」
1	ワークシート 1 等	写真(演奏風景)	東京書籍 新しい音楽 5 年 P 10, 11
例	資料 1 「人間は素晴らしい」	読物資料	「人間は素晴らしい」 偕成社 P 12 ～ 16 著作者 椋鳩十

②個人情報の保護について

「教材キット」はWebページから誰でも自由に閲覧できるようにしますので、個人情報の保護については十分なご配慮をお願いします。生徒等の写真の掲載にあたっては個人が特定できないようご注意ください。

③作成者の皆様の著作権について

作成者の著作権（財産権）は、本センターに譲渡していただきます。その際、Webで発信すること、キット利用者がコピーすること、加工して利用すること等についても許諾していただきます。

④センターでの確認について

作成していただいた教材キットは、個人情報の保護や著作権等での問題がないかを、本センターで確認します。必要がある場合には修正をさせていただくこともあります。

2 《キットの概要》の作成

(1)作成の手順

《キットの概要》は、教材キットの内容を紹介するためのもので、教材キットの最初のページに入ります。

ファイル「ひな形」1 ページの《キットの概要》に、次ページの留意点を参考にし、概要と作成者の意図がわかるようにまとめてください。

(2)「キットの概要」記入上の留意点

高等学校
地理歴史(地理B)
タイトル

(MSゴシック体 14ポイント)

近隣諸国研究(マレーシア)←

内容がわかるようなタイトルを工夫しましょう
(MSゴシック体、16～20ポイント)

キットの内容

- 学習指導案
- ワークシート
- 資料写真(クアラルンプール市街、各宗教の寺院、パームやし)
- グラフ(マレーシアの輸出品目1973年と1998年、輸出入相手国)
- 参考リンク集

キットに収められている資料
(MS明朝体 12ポイント)

キーワード

- 近隣諸国
- マレーシア
- インターネット
- 文化の多様性
- 課題追究学習

Webページで検索する際のキーワードです。
キットの内容とは区別してください。
(MS明朝体 12ポイント)

キットの概要

この教材キットでは、近隣諸国の中から、生徒には比較的なじみの薄い東南アジアからマレーシアを取り上げました。マレーシアは、文化の多様性が見られること、近年急速に工業化が進み変容が著しいこと、工場の進出や貿易などで日本とのつながりが深いことなど、地理的に多様な要素を持つ国であり、この項目で追究させる国として適当であると判断したからです。

調査活動では図書室とインターネットを活用してマレーシアを地誌的に追究させ、各班の調査結果のまとめ・発表にあたっては、ホームページ作成ソフトを用いて発表用画面を作成させるなど、パソコンを利用した活動を取り入れ、生徒の主体的な学習を促しました。

指導計画の後半では、マレーシアについて追究することで身に付けた見方や考え方をもとに、マレーシア以外の国を選ばせて課題追究学習をさせました。

このような学習を通して、日本の生活・文化との共通性や異質性、今後の交流の在り方や日本の役割について考察させ、それぞれの国の生活・文化を理解し尊重する態度を身に付けられるように工夫しました。

- 時間配当
- | | |
|----------------------------------|------------------|
| 1…マレーシアの概説 | 2…調査活動と調査結果のまとめ |
| 3…調査結果の発表 | 4…マレーシア研究のまとめ |
| 5…各班で追究する国を選択して、追究課題を考え、調査活動を行う。 | |
| 6…調査活動と調査結果のまとめ | 7…調査結果の発表と単元のまとめ |

キットの概要について記述します。
(MS明朝体 12ポイント)
収められている資料の紹介
授業のねらい
活用のポイント など



教材キットが完成したら、
提出前に、《提出チェックリスト》
(「ひな形」3ページ)で確認願います。

作成上の疑問点等については、研究調査部
教材キット担当(小川順子、小森祥一、杉山正明)
あるいは、各教科担当指導主事まで
お問い合わせ、ご相談ください。